



「やり抜く力」を

校長 浅見 正史

今年の夏も、異常なほど猛暑日が続きましたが、この暑い夏、生徒の皆さんが学習やスポーツ、部活動に励む姿はたくましく、大きく成長したと思います。また、パリオリンピック2024も開催され、様々な種目を通して、多くの感動を与えてくれました。私は、大逆転で連覇を果たしたスケートボードの堀米雄斗選手の「1%の可能性を最後まで信じてやったことが実った」という短い言葉ですが、「やり抜いたんだな」と、感じさせる言葉が印象的でした。皆さんの心に残ったアスリートの言葉は何でしたか。



さて、生徒の皆さん、「やり抜く力」の「Grit」(グリット)という言葉を知っていますか。心理学者のアンジェラ・リー・ダックワース氏が、「社会的に成功するために最も必要な要素は、才能やIQ(知能指数)や学歴ではなく、やり抜く力である」という「Grit」理論を提唱し、さまざまな分野で大きな反響を呼んでいます。「やり抜く力」とは、目的を達成するために継続的に粘り強く努力し、物事を最後までやり遂げる思考態度のことです。(第2期さいたま市教育振興基本計画より)「やり抜く力」を身に付けるためには、非認知能力のスキルを高めることが大切です。非認知能力とは、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力のこと全般を指します。そこで「やり抜く力」を身に付けるために、具体的な方法を考えてみました。

- ① 何事にも挑戦する。(意欲がスタート「まずやってみよう」)
- ② 人とかかわり、ヒントを得る。やり抜いている人を真似してみる。(吸収力は無限大)
- ③ 取り組み方を工夫し、自分のやり方を身に付ける。(工夫実践には失敗がつきもの)
- ④ 「できた」という成功体験を積み上げる。(自信は小さな喜びから)
- ⑤ 改めて、短期・長期目標を決め、粘り強く最後まで取り組む。(最後は「継続は力なり」)

さあ、生徒の皆さんも難しく考えず、まず目の前のやらなければならないことから始めましょう。短い時間でもよいので継続して取り組むことで「やり抜く力」を高めれば、一つの物事に対してあきらめずに根気強く取り組むようになり、一人ひとりが「今、自分が何をすべきか？」を考えながら行動・自走することができるようになるのではないのでしょうか。

この夏にやり抜いた人は、引き続きスキルアップを目指してください。やり抜けなかった人は自分を見つめ直し、改めてチャレンジしてください。2学期が始まりました。まだまだ、それぞれのゴールまでには時間がありますので、気持ちを新たに頑張りましょう。

保護者・地域の皆様、2学期は、東中発表会、合唱コンクール、未来くるワーク(2年)、校外学習(1年)などの学びを通して、「やり抜く力」を身に付ける絶好の機会でもあります。子どもたちのチャレンジを温かく、励まし、見守っていただけますようお願いいたします。